

戦前の軟派出版人脈の動向を追う

粹古堂・伊藤竹酔

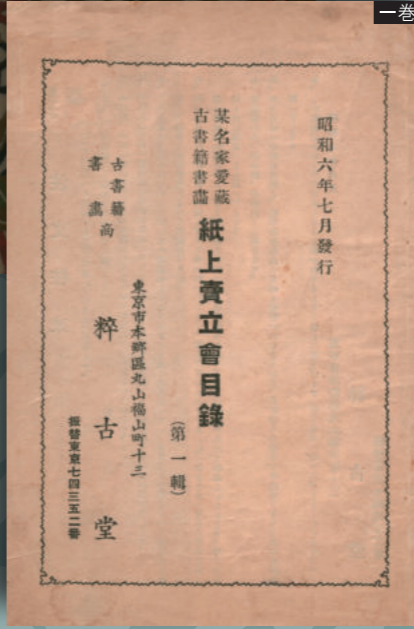
文圃文献類従71

編・解題―大尾侑子

全三巻・別冊

書物はすべての本好きへと平等に開かれているのであり、『粹古堂・伊藤竹酔』はそれを改めて教えてくれる。

竹酔とその周辺に広がる古書市場や軟派出版界を解剖するための第一歩



粹古堂・伊藤竹酔

―昭和前期の軟派出版と古書事業

全三巻・別冊
【編集復刻版】

今回収録された粹古堂関連の資料は市場でも出回っておらず、入手は非常に難しい。

『粹古堂・伊藤竹酔―昭和前期の軟派出版と古書事業』総目次細目

<p>■『竹酔自叙伝』(1961年発行)</p> <p>序 斎藤昌三 1=11~13</p> <p>貴重な資料たる自叙伝 酒井 徳男 1=14~15</p> <p>序文にならない序文 霜島 之彦 1=16~17</p> <p>序 長谷川 かな女 1=18~19</p> <p>自序 伊藤 竹酔 1=21~23</p> <p>目次 1=25~27</p> <p>幼時の思い出 1=33~36</p> <p>明治の風物 1=36~39</p> <p>研文学会時代 1=39~51</p> <p>敬文館時代 1=51~52</p> <p>朝香屋へ復帰す 1=52~54</p> <p>関東大震災 1=54~55</p> <p>粹古堂から現代まで 1=56~57</p> <p>森岡家事歴 1=57~61</p> <p>(随筆)</p> <p>山岸荷葉先生のこと 1=65~67</p> <p>竹久夢二君と私 1=68</p> <p>夢二のことども 1=69~70</p> <p>文芸倶楽部の回顧 1=70~72</p> <p>荷風先生を追慕する 1=72~74</p> <p>古書展漫談 1=75~77</p> <p>ボツカチオ五百五十年祭 1=78~79</p> <p>落語研究会 1=80~82</p>	<p>粹古堂推薦の言葉 酒井 潔 1=113</p> <p>自己提灯の記 1=114</p> <p>和本の部 1=115~117</p> <p>写本の部 1=118</p> <p>明治物単行本の部 1=119~122</p> <p>大正以後単行本の部 1=123~128</p> <p>洋書の部 1=129</p> <p>雑の部 1=130~131</p> <p>新聞雑誌の部 1=132</p> <p>和本の部(追加) 1=133~134</p> <p>明治時代単行本の部(追加) 1=134</p> <p>大正以後単行本の部(追加) 1=134~136</p> <p>雑の部(追加) 1=136~137</p> <p>大人場の部(見切本) 1=137~139</p> <p>新刊書短期半額特売目録 1=141~151</p> <p>(粹古堂地区) 1=152</p> <p>■『蒐集時代―趣味の間屋』1 蒐(粹古堂、1936年)</p> <p>創刊の辞 2=9</p> <p>目次 2=10</p> <p>蒐集時代の意義を考ふ―コレクション/物 の意義/蒐集趣味/蒐集時代/蒐集の意 義/蒐集人格の永誠に心せよ/「蒐集時 代」来る 池田 文衛 2=13~18</p> <p>民具の蒐集趣味 高橋 文太郎 2=18~22</p> <p>記念乗車券の蒐集 宮下 武太郎 2=22~</p>
--	--

編・解題―大尾 侑子 (日本学術振興会特別研究員PD)

【第一回配本】2019年8月 配本揃価 28,000円 ISBN978-4-909680-44-0

- 第一巻(154頁) B6判
- ・伊藤敬次郎『竹酔自叙伝』(日本愛書会、1961年12月15日)
 - ・『某名家愛蔵古書籍書目録』1輯(粹古堂、1931年7月)

- 第三巻(214頁) B6横判
- ・『蒐集時代―趣味の間屋』1蒐(粹古堂、1936年2月15日)
 - ・『蒐集時代―近代花街年表・花街風俗展覧會目録・花街賣笑文献目録』2・3号合輯(同、1936年6月25日)
 - ・『趣味の遊園地帯』(同、[刊記未詳])

【第三回配本】2020年2月 配本揃価18,000円 ISBN978-4-909680-45-7

- 第三巻(約200頁) A5判
- ・『古本趣味―新春特売目録』(粹古堂、1934年1月)
 - ・『粹古堂目録』秋季特選号(粹古堂、1935年10月)
 - ・『粹古堂目録』103(歳末飛躍)号(粹古堂書店、1938年12月)
 - ・『書痴』号外(粹古堂内書痴会、1937年5月)
 - ・『水滸洞』1~3号(粹古堂書店、1937年12月~38年2月)
 - ・『水滸洞』(粹古堂書店、1938年5月)
 - ・『水滸洞』(粹古堂書店、1938年7月)
 - ・『絶版文献資料目録』9号(粹古堂書店、1940年12月)
 - ・『絶版文献資料目録』19号(粹古堂、1943年1月)
 - ・『絶版文献資料目録』(粹古堂書店、[発行年月未詳])
 - ・『いかもの趣味』3号広告(粹古堂、[1935年])
 - ・『花街文献資料目録』(伊藤敬次郎、1963年9月1日)

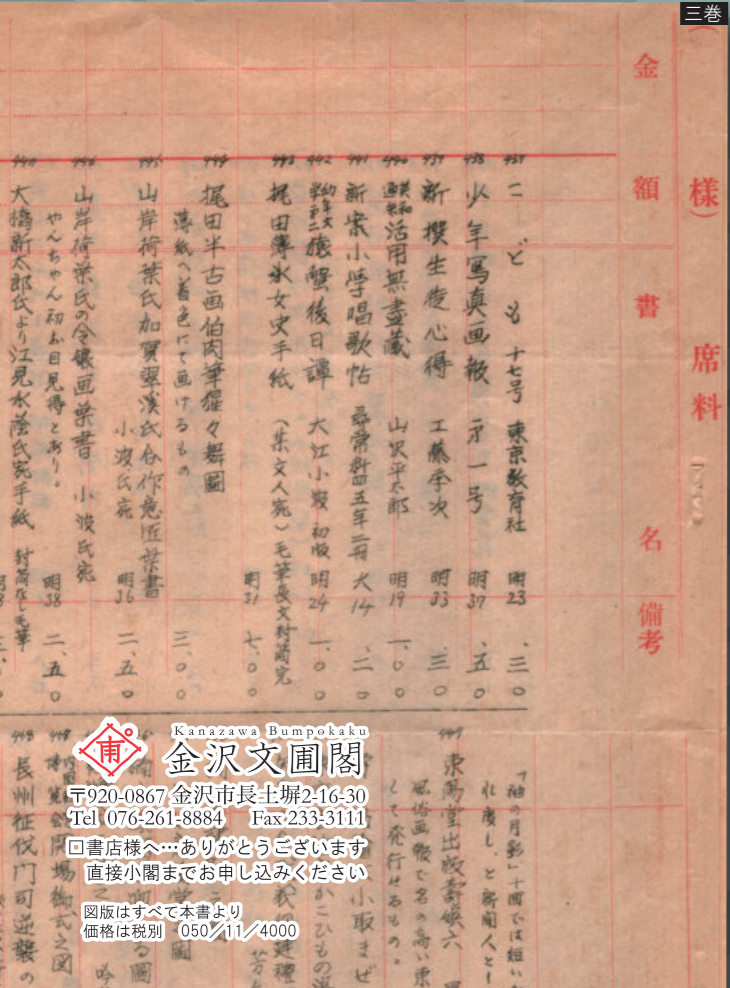
別冊(約30頁) A5判 ISBN978-4-909680-46-4(別冊のみ分売可1,000円)

*解題・総目次細目

解題では 伊藤竹酔の来歴と収録された資料の概要、『竹酔自叙伝』から抜け落ちた戦前軟派出版界との繋がりについても補足し、近年の出版研究、メディア史分野の動向を踏まえて本書の意義と活用法を示す。

関連書のご案内

2020年刊行予定 ご予約受付中
『性・風俗・軟派出版 パンフレット集成―エログロナンセンスの尖端』



Kanazawa Bumpotaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
☎書店様へ…ありがとうございます
直接小間までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別 050/11/4000



私が人生双六から転落して再び朝香屋へ復帰したのはたしか大正十年頃であったと思う。此

朝香屋へ復帰す

茲で朝香屋書店主大柴四郎先生のことを少し述べよう。先生は大分県人で三三峰と号し自由

酒井潔の『巴里上海歡樂郷案内』（1930年）や『エロエロ草紙』（1930年）をはじめ、花街や歡樂街に関する著作を多く扱っている。

1920年代に活況を呈した軟派出版界は激しく弾圧され、世間を席卷したエロ・グロ・ナンセンスブームも収束していく。蒐集趣味や愛書趣味の世界で彼らのネットワークが命脈を保って「エロ（性風俗）」というジャンルが弾圧されて以降も、その一部は蒐集趣味の世界へと戦場を移し、活動を続けていた

Table of contents for '大正以後單行本の部' (Department of Single Books after Taisho), listing various titles and authors.

Table of contents for '雑の部' (Department of Miscellaneous), listing various titles and authors.

Table of contents for '百穂肉筆畫帖' (Hyakuhoe Nibushu Gashu), listing various titles and authors.

伊藤 竹酔 いとう・ちくすい 1884-1965 神奈川県生。神田加治屋町の朝香屋書店の店員となる。1923年、関東大震災で朝香屋書店が消失・倒産。軟派出版社の国際文献刊行会を本郷に設立。昭和初期には粹古堂の名で古書事業を始める。

粹古堂から現代まで

主人は特病の胃痛で、それに年もとられたので煩はしい出版が嫌やになり廃業することとなり私は朝香屋書店の暖簾を貰って主家を離れ、本郷丸山福山町（一葉女史終焉の地）十三番地へ独立して出版を続け傍ら「粹古堂」の名で古本屋を創めた。此の粹古堂が縁で大蔵大臣になられた第一銀行の頭取沢沢三三先生と懇意になり、よく本を背負って第一銀行や三田のお邸へ伺い又丸山福山町の茅屋へ自動車で来られたことがあった。

又早稲田大学の演芸博物館長河竹繁俊先生のお引立により毎月演博へ演芸に関する珍品を納めたことがあった。

御紹介の言葉

御本流の洪水乃至その反動出版として豪華版の挿頭を見る時、愛物種を押しは自らの意の向くまゝの

竹酔書房新設古書籍部 粹古堂推薦の言葉

此後竹酔書房が、古書籍部を新設して、新刊出版と同様に、古本界にお目見得する事になった。出版業者としての竹酔君の良心と誠意とは、先刻諸君承知の通りだから、今更タダく申し上げない。

近年、メディア史や出版史研究では、同時代の岩波茂雄や野間清治、山本実彦をはじめとする出版人に照準する議論が活発化している。こうした人びとに比べて伊藤竹酔はまだ多くの点でベールに包まれた存在といえる。しかし、近代の出版史をより立体的に把握するために、竹酔のような存在を無視できないことは明白だろう。